



歌



ゲスト

**森 敬恵** (もり・としえ)  
(ソプラノ歌手)

聞き手

日本教育文化研究所理事長  
三好祐司  
日本教育文化研究所専務理事  
森 徹之

同席者

日本教育文化研究所常務理事  
新田秀樹・植田宏和・内村壮一

重大な少年犯罪などが相次ぎ、教育現場での「心の教育」の大切さが改めてクローズアップされています。「美しい日本人の心を育てる教育の創造」をスローガンとする日本教育文化研究所の活動に対しても、具体的な対応が迫られています。

今回のインタビューは「日本の心」を童謡・唱歌で呼びもどそうと活動されている、ソプラノ歌手の森敬恵さんをお招きし、お話をうかがいました。

伝える  
「日本の心」



司会(森徹之) 本日は、ソプラノ歌手の森敬恵さんに、「歌で伝える日本の心」と題してお話をうかがいたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

三好 本日は日本教育文化研究所に、ご多忙中にもかかわらずお越しいただきましてありがとうございます。森さんが「日本の心・コンサート」を主催され、全国各地で日本の童謡、唱歌を若い世代に伝えていらっしゃる、そして、日本の美しい文化を後世に伝えたいという思いで広めていらっしゃるということにつきまして、心より敬意を表させていただきます。

私たち日本教育文化研究所も、「美しい日本人の心の育成」をスローガンに掲げ、本来あるべき教育の姿を取り戻すべく、日々活動しております。今日は、限られた時間ではありますが、森さんのお



プロフィール

森 敬恵 (もり・としえ)

ソプラノ歌手、二期会ブロック活動部門「日本の心歌い継ぐ会」事務局代表。愛媛大学特設音楽科卒業、東京芸術大学大学院オペラ科修了。NHK-FM、NHK-松山等出演。フッチャーニ・「ボエム」のミミヴェルディ、「椿姫」のヴィオレッタ、団伊久磨・「夕鶴」のつう、他多数のオペラを歌う。平成2年「響け、歌おう、童謡日本」、平成6年「愛のコンサート」、CD「日本の子守唄」リリース(日本コロムビア)。平成14年3月「愛子内親王殿下おひな祭りの会」ソロ演奏を献上。我が国における社会や青少年の精神的荒廃に対し「日本の心・コンサート」を各地で開催。

話をうかがって、私たちの会員の新たな糧とさせていただければと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

森 よろしくお願いいいたします。

日本の青少年に、大人に、メッセー지를伝えたい

三好 私たちが、最初に森さんと出会うこととなったきっかけは、私たち青森の協議会が森さんのコンサートを企画し、おいでいただいたことでした。その際に会員から、また前理事長の前澤から「とても素晴らしいコンサートだった」という声が上がりました。これはぜひもっと多くの会員にご紹介しなければ、ということになりました。そして、このたび、第二十



一回定期大会のレセプションで森さんにご講演いただく運びとなりました。この企画には、会員からすでに「楽しみにしています」「期待しています」という反響が巻き起こっています。この機会に、森さんのこれまでのご活動とコンサートの内容についてお聞かせいただければと思います。

森 私のコンサートの形態は、今までク

ラシックの歌手が行ってきたコンサート形態とはまったく異なるものです。「トーク・コンサート」とも「講演コンサート」とも呼ばれています。コンサートを始めたきっかけは、日本の青少年の「心の破壊」の進行が非常に激しいということから取り組みはじめました。

七年前、神戸で少年による殺人事件が起こったときに、私は「なぜ子供たちが善悪の判断がつかないほど追い詰められているのだろうか」ということについて考えさせられました。そして、あの少年と同世代の子供たちがテレビのインタビューで、「自分たちにも同じような心の鬱積がある」ということを訴えているのを見聞きして、これは単発的、突発的な事件ではなく、大きな社会の傾向に影響されたものだと感じたのです。その根源に何があるのかと、自分なりにいろいろと調べた結果として、問題の本質を伝えるためにコンサート活動をはじめました。

もう三年以上になるのですが、私なりに調べてわかったことをコンサートに少しずつ盛り込み続けてきました。この物質至上主義の世の中で私たちに足りないものは、「日本人の心」ではないだろうか。心がなおざりにされてきたことが、子供たちの「心の破壊」、「腐敗」の原因

になっていっているのではないだろうか、ということをお話ししながら、歌を紹介するという形態にしたのです。

日本の歌には、子守歌、童謡、唱歌といった世界に類を見ない音楽のジャンルがあります。日本の音楽家たちが、どうか子供たちが健やかに育ちますようにという願いをこめて作曲した歌が、膨大な量にのぼるのです。世界広しといえどもこれだけ子供のための音楽があるのは日本だけです。こういう文化がある日本で、なぜ今、歌われなくなっているのかというところ、子供たちの心が「破壊」され、精神的に追い詰められている原因のひとつとして、こうした歌という文化が伝えられなくなったことがあるのではないだろうか、と問いかけるコンサートです。

日本という国の心、この素晴らしい国の文化を取り戻さなければならぬ、このままにはしておけない、それが私たち大人の責任ではないでしょうか、と問いかけるわけです。この形態で、昨年は二十八カ所でコンサートを行いました。

私としては、それでも回数としては足りないと思っています。とにかく、急がねばならないと思うのです。子供たちにも大人たちにも自分の問題として気づいていただいて、気がついたその日から自分自身で考え、行動し、発言していただ

『コンサートで歌われる曲』

- ・みかんの花咲く丘
- ・夏の思い出
- ・浜辺の歌
- ・運かな友へ
- ・殖生の宿
- ・宵待ち草
- ・ねむの木の子守歌
- ・荒城の月
- ・故郷

他

きたいのです。

三好 今、私たちには世代を超えて共有できる歌というものがなく、思えま

す。子供たちは最近の流行歌を歌い、お年寄りには演歌を歌うなどと、世代の間に隔絶があることも精神性のようなものが伝わらない理由のひとつではないでしょうか。二十八カ所でのコンサートを行われた中で、どのようにお感じになりましたか。

森 個人を重視しすぎる「個人主義」が極まって、大切な世代間のつながりがなくなっていると思います。人と人のつながりがなくなると、どんどん孤立化していくのです。これは、大変恐い傾向ですね。昨年のコンサートは、高等学校などが中心でしたが、会場にいらした大人の方がお子さんを連れてきていました。これからは、もっと子供たちにも多く接していきたいと思っています。



## 海外に残されている日本文化のよさを再発見する

三好 私たちは毎年、台湾を訪問する機会があるのですが、そこで歓迎してくださる七十歳を越えるくらいの方々が、日本語で「日本人には大変に世話になりました。台湾には今でも日本が残してくれたよいものがたくさん残っています」とおっしゃるのです。

森 私も昨年十月に台湾政府に招かれて訪問しました。七名招かれて行ったのですが、そこで、台湾の方が「日本には素晴らしい精神があったのに、どうして今は荒廃してしまったのですか。もっとしっかりしなければいけませんよ」とおっしゃるのです。日本人が教えたことが台湾で現在の近代化の基礎を作っている、とまでおっしゃっていました。日本は台湾の恩人だとも。「そういう恩人が大切なものを失って、社会が動揺していることが残念です」というのです。

その方は、大切なものの第一は「人を残すこと」で、人をこの世に残した人が一番偉い人だと話してくださいました。第二が「事業を残すこと」、雇用を生み



出すことです。そして、一番下が「お金を残すこと」だとおっしゃっていました。まさに、今の日本では、この一番下の「お金」「経済」がすべての物事の中心になっています。物質文明に偏ってしまったことが、「社会が不安定になった」ことの原因だと私は思います。

私は、日本を訪れたブラジル移民の三世の方々、四世の方々とも交流する機会を持って、歌のご指導をさせていただ

## 「陰と陽」という「物事の摂理」を擁する日本の文明

三好 今の日本があるのは、私たちの祖先のご苦労があったからだということ、さまざまな本などでこのところ読んでいるのですが、とくに明治維新の前後に多くの方々が努力されたことに感銘を受けています。最近読んだ本に、サミュエル・ハンチントンの『文明の衝突』があるのですが、その中で「世界の文明の中でも、日本の文明はひとつの国でひとつの文明を構成している、これは注目し値することだ」と説いています。京都大学の中西輝正教授も、「日本という国は世界の中でも独特の、非常に高い精神性を持った国だ」としています。世界の国々を見ると、「個人」に重みをおく文化が目につきますが、日本では「公（おやおけ）」が重視され、周囲の人のこと、そして国のことを第一に考える、そしてその高い精神性によって動いたのだと思うのですが、どうお考えですか。

森 日本が今日あるのは、明治の先人たちの偉業があってこそだと思いますが、今の日本の姿を、明治維新を成し遂げた



方々が見たら嘆くだろうと思います。日本の文明は、ほかのどんな文明にもないような「全宇宙的なバランス感覚」を持っています。「真理」ともいえる、「宇宙の摂理」にも似たもので満ちていると思います。世界のどの文明にもない、日本独自のものです。この島国のどこからこんな文明が生まれたのかと私自身、驚きを感じるほどです。

「日本神話」では、日本の国はイザナギとイザナミの二人の神によって造られたと伝えていきます。男の神であるイザナギは「陽」の神で、もう一方の女の神のイザナミは「陰」の神です。「陰と陽」「プラスとマイナス」の神がひとつになっただけのものをお造りになったというところから始まっていますが、この「陰と陽」というのはまさに「物事の摂理」なのです。

すべてのものには、必ず相反するもの

たのですが、やはり同様なことをおっしゃっていました。日本は素晴らしい文化を持っていたのになぜ、なくなってしまうのですか、と。ブラジルに移民された方は、今でもなお、日本で忘れられている「いいもの」を持っているのです。

ブラジル移民の方が、ご子息たちを日本に研修旅行させるのですが、二カ月間の研修旅行で、為替レートなどの関係で昨年は一人約三百万円ほどもかかったそうです。その前の年には約百万円だったそうです。

ご両親たちは、十三、四歳の子供たちに「お金はお前たちに残しません。お金は人をダメにするからです。けれども、心の教育を残すためにお金を貯めて、研修旅行に行かせる。それを財産だと思いなさい」というのだそうです。この研修の間に「独立心」と「協調性」と、最後に「お前たちのルーツを学んできなさい。お前がここにあるのは、日本という国があったからだ」といって送り出すというのです。こんなにしっかりと親から子へ伝えられる「教育」は日本にはまったくないのではないのでしょうか。

今、日本が生んだ貴重な文化が世界各地に残っていて、本家であるはずの日本にはない、ということ。これが根本的な問題なのだろうと思います。

があります。「表と裏」「南極と北極」「光と陰」というふうです。この相反するものが相互に協調しながらひとつのものを造っていくのだという教えが最初にあったということです。これが、精神の深いところ、底辺に流れていて、その上にさまざまな時代を経て日本の文明が生まれているのです。この底辺に流れる発想のバランス感覚のすごさが世界に類を見ないものだと思います。

今、戦後約六十年経って、このバランス感覚が根こそぎ無くなってしまったという感じがあります。「精神の侵略」といえばいいでしょうか。「剥奪された」ということもできるかもしれません。世界のどの国も、自らが生きながらえるために、弱肉強食の国際社会の中でつねに戦ってきました。受け身の態度で生存することは考えられません。その中で日本は、幸いにも海に囲まれていたために深刻な侵略を受けることが少なかった国です。歴史の中で何度か危機に瀕したことはありましたが、世界各国に比べると極めてそういう経験が少ない中で生存し、文明と文化を豊かに育んできたのです。

この文化の成熟度の高さを、世界中のどんなものより素晴らしいと思います。「源氏物語」や「枕草子」などの文

学は十世紀に作られているのです。十六、七世紀のシェークスピアより六百年以上もさかのほることになるのですから。

三好 最新の量子物理学の世界でも、「陰と陽」の関係でさまざまな現象が説明されることがわかってきていますね。これまで普及してきた一元論的な科学ではなく、真理を追究すればするほど、「陰と陽」の二元論に接近すると科学者がいっています。

**「神の心」が宿る  
と考えれば、  
自分も人も尊重できる**

森 私は、日本人は「神の子」だといっています。子供たちにも「私たちは神から生まれたのですよ。だからみんな心の中には神の心が宿っているのですよ」と語りかけます。その「神の心」があるからこそ、お互いを尊重するという「日本の心」があったと思うのです。そう思うことが子供にもわかるのです。そして、「自分の心の中にある、神の声を聞く」と考えることが自分自身を高めてくれるのです。自分を精神的にも強くしてくれます。

ことができなかったのですが、そこを理解せずに、外交の場でも「和の精神」で相対したら、太刀打ちできないのが当然なのです。外国に対する時、交渉に臨む時の発想が、日本と外国では根本的に違っているのです。

**人間は  
合理性だけではない、  
「心」で支えられている**

三好 日本では、聖徳太子が説いた「和」を大切にしてきたわけですが、相手によるということですね。逆に、よく耳にするのが、企業の経営者が日本式の経営では時代遅れだといって、アメリカの経営方式を取り入れたケースの話です。アメリカでMBAを取ってきた人がコンサルティングとして携わったりして、それで実際にいい経営になるかというところではない。最終的には従業員を大事にする、「和」を大切にする日本式の経営のほうがいい結果につながった、という話をよく聞きます。

価されているのだと思います。

森 戦後、海外の各地で日本人が捕虜になりましたが、そこでも同様の話があります。当時、捕虜は強制的にさまざまな建設労働などに従事させられました。ダム建設とか、オペラハウスや宮殿を建設したという話も聞きました。その時に日本人が携わった工事が非常に優れていて、その後、地震が起こったときに周辺の建物が崩壊したのに、日本人が作ったものは壊れなかったというのです。実に素晴らしいものを日本人は世界各地に残しているのです。当の日本人がその素晴らしいさに気づかないのでは、寂しい限りです。

**「自由」「権利」などの  
一面だけでなく、「人間  
の社会性」を伝える**

三好 現在の教育でなすべきこと、欠けていることなどについてのお考えはいかがでしょうか。

森 今の日本の教育に携わられる皆さんのご努力のほどは、さぞかしご苦労が多いだろうと推察いたします。私は教育の現状の遠因は戦後処理にあると思っています。アメリカのロバート・ステイネツ

トが「真珠湾の真実」という本で、十七年かけてアメリカの軍事情報、秘密情報を公文書によって研究した結果を記しています。「当時のルーズベルト大統領が日本人の高い精神性に驚き、この国を早い段階で潰しておかねばならないと考え、事前に奇襲攻撃の情報を知りながら、真珠湾を攻撃させた」というのです。その結果、日本は敗戦し、戦後、日本国憲法で権利と自由、個人尊重などを高らかにうたい、世界平和の名の裏で日本人が自立できないように徹底的に「日本の心」をなくしてしまう方向に誘導することにつながったのです。

この方向性に基づいて、約六十年間を経過した教育現場では厳しい状況があります。子供たちの心が「空っぽ」になっていて、しかも攻撃的で、そのために重大な事件が起こるようになっていのです。かつての日本人の高い精神性が失われた教育現場での先生方の苦悩はいかばかりかと思えます。こうした崩壊した状況をくい止めるためには、先生方をはじめ、子供たちも親たちも一日も早く、方策を打ち出さねばならないのではないかと思います。

「自由」が重要だといわれますが、自由を支えるのは「ルール」であり、「規律」「秩序」だということ、「個人の権利」

ものは抹殺されてしまいますから。人間は「心」で支えられている物体です。人として「形」はありますが、この「形」は見えない「心」によって支えられている。

「心」は、見えないし、捉えようもないものです。「心」がしぼんだら、人間はあつという間に弱ってしまいます。見えるものは見えないものによって支えられているということ、昔の日本人は知っていたのです。ところが、戦後約六十年の間に、外国文明を取り入れ続ける中で、この「支え」は捨てられてしまいました。合理性もいけれど、非合理的なものも大切に両立させていた日本人の歴史、知恵を思い出したほうがいいのではないか、と思うのです。

三好 イラクでのことですが、アメリカに対する「反米デモ」が各地で頻繁に起こっていることがニュースなどで報じられています。ところが、日本の自衛隊が人道支援でいっているサマワという町では、まったく反対に「日本よ、きてくれてありがとう。サマワに残ってください」というデモが起こっているという報道を目にしました。やはり、日本人の支援の方法というのが一元論的に押さえ込むのではなく、イラクの人々と交流をしながら進めていくやり方で、それが高く評





が真っ先に主張されますが、これを支えるのは「社会」であり「国」なのだということを示さなければならぬと思います。「自由」と「秩序」、「個人」と「社会」といったものは表裏一体のもので、私たちが「オギャー」と生まれた瞬間から、人間は実に社会的な存在です。個人は社会が支え、国が支えているものです。だからこそ、私たちが安全で平和に生きていくことができるわけで、それをわきまえずに「自由だ」「権利だ」と一面ばかりを求めれば、破壊にしかつながら

せん。このことを伝えねばならないと思います。

### 子育て、教育は「もの」を扱うのではなく「生命（いのち）の伝達」

三好 私たちも現在、「美しい日本人の心の育成」というスローガンのもとで、五つの「心」についてまとめの作業をおこなっています。ひとつ目が「自己を愛する心」、次に「人を愛する心」、三つ目が「自然を愛する心」、四つ目が「社会を愛する心」、そして五つ目に「国を愛する心」と位置づけて、それぞれきちんと定義づけを行い、「美しい日本人の心」を育成するために学校現場でどのように実践できるかということをもとめています。

これを文書として来年三月には発行し、各学校に持ち帰って広めていこうという活動です。やはり、自分を愛せない子供は、人も愛せないし、自然も社会も愛せないだろうということで、まず、自分を受け入れられる、自分を愛せる子供になることをめざし、それから、人を愛し、国を愛する心まで伝えたいと考えています。

森 非常に根元的な部分ですね。なぜ、子供たちが自分を愛せず、破壊的な行動に走るのかということですね。自分を大事にできれば他人も当然大事にできるのです。なぜ、自分を愛せなくなるのかということについては、私はこう考えています。物質至上主義、経済至上主義の中で、赤ちゃんとして生まれて以降、人を単なる物質、「もの」として扱う社会的風潮があるのではないかと。そのために合理性ばかりを求める保育がなされる、そういう風潮が根付いていると思います。

子育てというものが、物質や合理性などを超越した「生命（いのち）の伝達」であることを忘れてしまっているのです。「生命（いのち）の伝達」というのは種を保存することです。動物たちが自分たちの「種」を存続させるために、親はすべてのエネルギーとすべての時間を注ぎ込んで、一定期間子育てをし、そして、世間に送り出してきたのです。これが、物質至上主義によって軽んぜられ、消失してしまっていることが、子供たちが自分を愛せないことの原因だろうと思うのです。

女性たちがどんどん社会に進出し、いわゆるキャリア・ウーマンをはじめビジネス現場などで活躍している人もたくさん

んいます。これ自体、私は素晴らしいことだと思えます。けれども、赤ちゃんを産み子供を育てるという仕事では、そのための優しさや思いやりという女性特有のDNA的な要素が求められます。企業活動の中で経済性、合理性を追求する立場にありながら、子育てでは女性本来の特質を発揮するということがなかなかできないのです。

人間はそんなに器用ではありませんから。一生懸命に働いて、残りの時間に子供たちに対して同じくらい一生懸命に愛情を注ぐということはなかなかできないものです。どうしても、「合理的な子育て」「時間が節約できる保育」に走ってしまうために、「生命（いのち）の伝達」ができなくなっていると思います。親からの温かい思いやりなど、目に見えない形で「あなたはお母さんの大切な存在なのよ、生命そのものなのよ」ということが伝えられていない。

かつて、お母さんが子供に童謡を歌い聞かせたり、本を読み聞かせた時間というものは、なにげないけれども、大切な時間だったのです。この無駄とも思われる時間が、実は子供たちの「心」を育てていたのです。

自分が愛されているということ、自分のために親がすべての時間をつかってく



れているということが、子供たちに「生への意欲」をかき立てるのです。「生まれてきてよかった」という思いです。それが無くなってしまったのです。

三好 現在、政府は、少子化対策のためといった駅前に保育所を作ることを奨励したりしています。

森 それが問題です。「コンビニ保育所」ですね。

三好 ああいったことがどんどん進められていくと、お母さんと子供たちにとっては親子が離れる時間が増えるということになってしまいますね。

森 そこにニーズがあるから推進されてしまうわけです。女性が社会で働けるようにならなければならない、というニーズです。二十四時間保育とか、朝七時から夜十時までの保育といったことができるようになっていきます。これが一方では、子供たちの精神の荒廃を後押ししていることになり、ますます、そういう保育を受けてきて、大きくなったあかつきに、「自分は生まれてきてよかった」と思えるでしょうか。朝七時に預けられて、夜十時まで引き取られるのを待っていて、あとは帰って寝るだけになってしまいます。お母さんから、「あなたは私の大切な宝物なのよ」という「波動」を受けられる機会がなくなっているのです。

### 音楽の「波動」は人の体を浄化し、再生させる

三好 森さんのお話をうかがっていて、教育とは「生命を伝える」ということだと改めて実感しました。親から子守歌を聞かせてもらったり、童謡や唱歌をいっしょに歌ったり、あるいは、本を読み聞かせてもらったということが大切なのです。

森 そうですね。だっこされて、歌を聞かされていた時間に、子供たちは自分への親の見えない愛を感じ、生きていることの喜びを感じていたのです。愛された喜びを自分の中に持って、はじめて人を愛せるようになります。自分に与えられなかったものは、自分の脳の回路の中に生成されません。

三好 そのためにも森さんのコンサート、童謡、唱歌を歌って伝えていくということが重要なですね。私は、自分が社会科の教員なもので音楽のほうは現状がよくわかっていないのですが、学校の音楽でどんな教え方をすればいいかとい

つたお考えはありますか。森 今年から唱歌が何曲か音楽の授業にもどってきましたね。もっと精神の部分、「心」まで復活させなければと思います。根底的なところですね。そこまで復活させられれば、風が逆に吹きはじめるかもしれません。この風、逆風をこちらに向けるまでは気が抜けません。

三好 そういう場合、教える側の教師は、その唱歌の曲の中にどういう「心」がこめられているか、ということをよく理解して教えなければなりません。森 そうです。童謡、唱歌の中に歌われている「自然への愛」、自分が生かされ



ているという喜びを教えたいですね。人間も自然界の一員で、大いなるものによって生かされているという喜びを伝えることが大切です。さらには、人と人との触れあいの喜びが歌いこまれていくこと、愛や慈しみへの賛美が織り込まれていくことなども。そして、それこそが人間にとってもっとも大切な「心」だということですね。それによって、人は支えられているのだと。

そして、なによりも音楽は私たちの体を「浄化」してくれることを伝えたいですね。二千年の昔、ギリシャの哲学者、ソクラテスやプラトンが活躍した時代に、お医者さんが音楽を演奏していたという事実があります。音楽が持つ目に見えない「波動」によって、人の心を整え、病気によって乱れていた「波動」を「正の波動」に復活させたのです。

人間の体は約七〇パーセントが水でできているのですが、水は音楽の「波動」によって変化するので、水にクラシックや唱歌を聞かせると、水が結晶を作るといいます。聞かせる音楽によって結晶の形が違うのです。これは、「水からの伝言」という本に書かれていることです。きれいな音楽を聞かせると、乳牛がミルクをふんだんにだし、トマトの味がよくなるということが、この水の結晶の変化

によって説明されるのです。いい音楽を聞かせると結晶がきれいになります。

三好 美しいことばをかけると花もきれいに咲くといえますね。

森 そうです。「ありがとう」という感謝のことばとか、「きれいに咲いてね」といった優しいことばをかけると、そのことばの「波動」によっても水の結晶が変化するわけです。「波動」という目に見えないものがここでも素晴らしい作用を持つのです。

### 音楽は「海馬」に直接働きかけることで「生命の根源」を揺り動かす

三好 最近、子供の学力の低下がいわれられて、この一、二年は、「読み・書き・計算」のほうに教育の重点がシフトしています。学力低下論ができればそうなり、「心の問題」がいわれれば音楽とか美術などをもっときちんと教えるべきだとなるのです。こういう「教育の重点の波」は戦後何度か繰り返されています。私は、音楽は子供たちの「心の琴線」に触れるものだと思いますが、教え込むというより、ジワジワと心にしみ込むようにすることがひとつの方法かな、と思っている

のですが。

森 読み・書きといったことは人の大脳の皮質で行われるのですが、音楽は、脳の奥にある「海馬」で受けとめています。そのために、大脳皮質に障害がある人でも、音楽を聞くことによって、生命の根源を揺り動かされるのです。生命の根源が活発になればその生き物は再生されます。この音楽の力によって、障害が改善したという例もあります。植物状態の方の生命力が甦ったこともあるといいま

す。

三好 森さんが童謡、唱歌という音楽によって日本の「心」を伝えていくということには、人間として生かされているという根底的なものを伝えるお仕事ということですね。

森 そうなんです。日本の童謡、唱歌の本質というのは、「子供への親の祈り」なんです。健やかに育てよ、という「祈り」、そこに音楽の「波動」を一体化させていきたいですね。





人は一人一人が  
かけがえのない存在で、  
役割を持っている

三好 大変興味深いお話で、あつという間に時間が経過したというのが実感ですが、最後に全国の教職員に対してメッセージをお願ひできますでしょうか。  
森 さきほども少し申しましたが、教育現場に携わる皆さんのご苦労は想像にあまりあるものです。ひとつ気になることは、学校の教育現場で、子供たちの心を



かき乱すようなことがあると漏れ開いていることです。たとえば、「ジェンダー・フリー」の教育を唱えられている方々は、男と女の性別による差をなくすとおっしゃいます。私は男女には違いがあるからこそ、その特性がお互いを切磋琢磨し、相乗効果で高めあっているのだと思います。それを、男も女も「同等に」とすることは無理があると思うのです。この無理な方法を「時代の先端をいく思想」というように誤解して教育の場に持ち込んでいたら、それは大きな大きな「罪」だと思っています。早く、間

### 台湾に生きる日本の唱歌

四月に台湾で開催予定だった「日本の歌の夕べ、コンサート」は残念ながらSARSの影響で延期となりましたが、事前から大変な反響だったそうですね

森 今回は台北市の社会教育大会堂の新装落成記念のコンサートということで、日本の唱歌や歌謡曲など懐かしい歌を中心としたコンサートだったのですが、千名の定員の会場に、三千名もの申し込みが殺到し、急遽、入場できない人のために、大会堂の前に大画面を設置して、台湾の全土

にもテレビ放映しようということになっていました。

台湾には日本が残した精神や文化が脈々と生きていて、いま日本への郷愁の思いが盛り上がっているのだそうです。それで日本の歌を聴き、日本の良さをもう一度味わいたいと、このコンサートの企画が台北市政府の依頼を受けて始まりました。このコンサートは私たちの仲間にとっても日覚めるきっかけになりましたし、現地の小学生もコーラスで参加するというところで、いろいろな年齢層が大きな気づきをしていくきっかけとなる企画でした。SARSの問題が落ち着いたら、もっと大き

日本の息吹(平成十五年六月)

な規模で開催出来るように準備を進めているそうですよ。

日本の歌やこころを、外国人である台湾の人が大切にしている。その事実、多くの日本人が驚かされるんじゃないでしょうか。

### 甦れ日本のJUNO

ところで「甦れ日本の心コンサート」(P21)に詳細を記載を始められたのは?

森 学生時代はオペラ科で外国の歌を一生懸命に勉強していたんですが、社会に出て、自分が歌うことは、社会とどう関係するのかと考えていました。パブルがはじけた後、経済破綻にはじまり人間の精神もどんどん壊れていった。懸命にお金を稼げば幸せになるんだと信じて働いたのに、あふれるほど物も出来たのに、決して人々は幸せそうではなかった。それはお金や物を司る人間の心を育ててこなかったからではなかったか。

昔は親が子に絵本を見せたり、唱歌や童謡を聴かせたりして、次世代を担う子供たちを親子のふれあいの中で育ててきました。いまはそれが無駄のように思われ、子供は保育所に

違いに気づいて欲しいと思っています。子供たちには、「あなたたち、一人一人の存在はかけがえのないものです」と教えていただきたいですね。「人は大いなる存在によって、一人一人がその人にしかできない役割を持って生まれてきている」ということを伝えて欲しいと思います。アインシュタインもお釈迦様も、「人は自分以外のもののために生きるべきである」といっています。その役割を探すこと、個人は個人としてしっかりと生きて、その上で役割を持って社会のために、だれかのために生きること、尽くすことを教えていただきたいのです。

三好 大変貴重なお話をありがとうございます。私たちが全日本教職員連盟の会員は、日本の本来あるべき教育をぜひ実践したいと考えております。日々、個々努力しています。今後いろいろな場面でご協力をお願いいたします。私たちに、さまざまな単位団体が全国にありまので、ぜひ応援していただければと思います。

森 私も、より多くの人たちと手を取り合って、皆さんの力でこの日本を、未来の子供たちを守るための活動を続けたいと思います。

司会・三好 本日は、ありがとうございます。

# 童謡・唱歌で蘇る日本の心

童謡・唱歌を聞いて一口をきかない自閉症の子供もその感動を綴った!

歌の力で目覚めゆく日本のこころ

ソプラノ歌手・二期会会員

森敬恵さんに聞く

### この人インタビュー

預けて、働いた方がいいとなくなってしまった。

かつて私たちは人のために何かをしてあげられることを生き甲斐として育ったわけです。家族のため、子供のため、社会、お国のためにと自分の存在を位置づけて来た。しかし今は、行きすぎた自由で、ただの自分勝手で行き着くところは破壊的な自由です。このことを思ったときに、人間らしい優しさが込められている昔の唱歌や子守歌を歌って、隔るころが今、必要じゃないかと思つたんです。

三年前の十一月に明治神宮外苑の银杏祭りで行ったコンサートが一番最初でした。ステージから「みんな大切なものを忘れてきたんじゃないですか」と問いかけながら、子守歌や唱歌を歌つたんです。そうしたら、聴衆の皆さんが「そうだ、そうだ」と言ってくださって、やっぱりみんなこのことを思っていたんだと感じました。

### 自閉症の子供も感動

印象深いコンサートは、森 小中学校の芸術鑑賞会に招かれ



とNHK・FM放送で五十嵐芳芳とオオサキの制作、ペにそコ各地のコンサート。また佐倉市市民文化功労賞チャリティコンサート。平成10年、赤十字社より「日本の心」をテーマにしたCD「日本の心」を制作し、毎年、神宮外苑の会場で「日本の心」コンサートを開催している。平成14年には「愛国心」をテーマにしたCD「日本の心」を制作し、毎年、神宮外苑の会場で「日本の心」コンサートを開催している。平成14年には「愛国心」をテーマにしたCD「日本の心」を制作し、毎年、神宮外苑の会場で「日本の心」コンサートを開催している。平成14年には「愛国心」をテーマにしたCD「日本の心」を制作し、毎年、神宮外苑の会場で「日本の心」コンサートを開催している。

て子供たちの前で歌うこともあるんですが、松山市の小学校に行った時子供たちが感想文を書いてくれました。「こんな小鳥のような声を聴いたのは、はじめてだ」とか「感動した」と。驚いたのは学校の先生がどんなにしても、「ももきかない、字も書かなかった自閉症の子が、私たちの演奏を聴いて「すばらしかった。また聞きたい」と、はじめて字を書いて、感想を寄せてくれたんです。先生は「音楽は素晴らしい」とびっぴりしてました。音楽は生命力に働きかけるエネルギーを持っているんです。音楽は非常に洗練したかたちで波

もり としえ

動を作り上げています。波動の研究をされている江本勝先生の「水からの伝言」を見て大変感動しましたが、水でも波動を受け止めて反応しているわけですから、人間の心にはもつと強い変化が起きていると思うんです。人間の脳の奥には海馬があります。唯一音楽だけが、脳の一番の芯の海馬にまで到達するんです。たとえ脳性小児麻痺の子供でも音楽だけは出来たりするんです。音楽は人間の根源にある力を呼び起こす力を持っている。二千前のギリシャ時代には、お医者さんが琴を弾いたり、歌を歌って病気の人たちの壊れた精神構造を整えたそうです。

音楽の波動というものは目に見えないものです。しかし目に見えないものが大切であって、大きな力を持っていると私は思います。とかく人間は目に見えるものに囚われがちですが、人間の弱い心を支えるのは目に見えないものなんです。それは、思いやりや、感謝すること、人間を越えた大いなる存在に対する畏敬の念です。我が国では、そういう心を唱歌や童謡によって自然に育んできたのだと思います。

日本再生の核となる方々へ

最後に全国の読者へメッセージを森 私に留学をしたとき、外国の私たちが意図地なまでに自国への誇り、ルーツを守っている姿を見ました。私たちはその姿に学ぶべきだと思います。私たちが国民は、自由や権利の主張ばかり社会や国に対してするけれど、個人として社会や国を愛し強く立派な国や社会を育てることをこれまでしてきませんでした。個は社会の為に、社会は個の為に、の両方必要だと思えます。拉致問題で国という形の大切さに目覚め始めましたが、

国民一人一人が、日本再生の核になるのだと思えます。自分の存在の大きさを意識しながらはじめての一步を踏み出してほしいし、一人一人の一步がどんどん広がっていくことを信じています。幸い私が所属する二期会の仲間も、この主旨に感動し、全国に活動を広げようと言ってくれる方も出てきました。

おかげさまで「甦れー日本の心・コンサート」は、何処でも大好評を得て反響を呼んでいます。是非、皆様の町でもこの日本の心を歌うコンサートを御願ひしたいと思えます。(平成十五年五月六日インタビュー)

●森敬憲先生は現在「甦れー日本の心・コンサート」と銘打ち各地で日本の童謡や唱歌を歌い継ぎ、日本の心を伝えるトークコンサート活動を続けておられます。先生は日本会議の会員でもあります。先生はこの主旨に賛同し、全国の会員の皆様方にコンサートの開催を呼びかけておられます。コンサートの資料(企画書や講演CD)を用意しておりますので、「日本会議事務局コンサート係」までご請求下さい。日本会議事務局